



ときのまど

時の窓

TOKI NO MADDO

No.214

2019/12/1

他官庁の青年と「つながり」をつくった3日間 国公青年交流集会2019



国公青年レク 全司法から30名が参加

10月25日から27日にかけて、福島県いわき市にあるスパリゾートハワイアンズで国公青年フォーラム主催の国公青年交流集会2019が開催されました。国公労連に結集する行政省庁及び裁判所の労働組合から青年を中心に約120名（うち全司法からは30名）の参加者が集まりました。1日目には、「原発再稼働を司法の場から問う～私が大飯原発を止めた理由～」と題して、大飯原発3・4号機の運転差止判決及び高浜原発3・4号機の差止仮処分決定を出した樋口英明さん（元福井地裁部総括判事）の記念講演がありました。その後、グループに分かれ、「自然災害時における自分の仕事」「災害時に業務継続できない場合の影響」「災害時にも安心して業務継続するために必要なこと」などについて班別討議を行いました。

2日目には、レクリエーションを行いました。1日目の班別討議のグループを基準に各官庁の青年が入り混じった8チームに分かれ、運動の得意不得意を問わずみんなで楽しめるゲームを通して、官庁の壁を越えたチームプレイで盛り上がりました。

3日目には、東日本大震災の被害及びその復興の様子が映されたいわき市作成のDVDを視聴しました。

その後、会場のスパリゾートハワイアンズの支配人から東日本大震災及びそこから復興について、お話を伺いました。



【ボール運びリレーに挑戦する全司法の青年】

国公青年交流集会2019

記念講演・分散会



【自然災害時における自分の仕事】

(全司法) 不出頭では不利益を受ける場合もあり、当事者は無理にでも行かないといけないと思う人もいる。期日変更等は速やかな判断・連絡が必要。

(全通信) ふだん電波の監視業務を行っている。警察や消防の無線に支障があってはいけない。

(国土交通) インフラの復旧に向け、被災地に全国から人を派遣。派遣先が大変なのはもちろん、派遣元も少ない人数で業務を遂行しなければならないため、繁忙になる。



【樋口英明さん記念講演】

多くの裁判官が原発再稼働を許す中、私は以下の観点を持って考え、判断した。

- ①仕事慣れないこと
上からの指示に盲目的に従うのではなく、疑ってみる、おかしいことはおかしいと言うことが大切。
- ②頑迷な先例主義に陥らない
多くの裁判官は自分の頭で考える前に先例を調べるが、自分の頭で基本に遡って考えることが大切。
- ③リアリティを欠如しない
判断基準に置くべきは、規制基準のつじつまが合っているかどうかではなく、原発が危険で怖いと思うか否か。
- ④科学者盲信主義に陥らない
重視すべきは科学者の仮説や規制委員会の判断ではなく、地震の予知はできていないという厳然たる科学的事実。

Boys be ambitious in crisis.

【公務が災害時に業務を継続できなったら…】

(全司法) 逮捕状などの令状を発付できないと治安が悪化する。

(全通信) 警察や消防が電波・無線を使えなくなると治安が悪化したり、人命を救えなくなったりする。

【被災時も安心して業務を継続するために】

(全通信) 非常用電源の場所を知らなかった、コードの長さが足りなかった。周知や必要な備品の整備を。

(国土交通) 災害がなくても残業が20~30時間。非常時に対応できるだけの人的態勢整備を。



レクリエーション



ラダーゲッター！
3つのラダーにボールをひっかけたら得点！

全司法の友好祭典
でもおなじみの
ドッチビー！



夕食交流会



分散会のグループで夕食。官庁を越えて楽しく交流しました！



2日目のレクの優勝チーム！
全司法では、
岩渕さん(福島)
沼尾さん(秋田)
岡野さん(愛知)
井村さん(和歌山)
が入っています！

職場と組合の紹介を行いました。
民事・刑事・家事・少年各分野の仕事内容をいろいろな青年から語ってもらいました！

